

みんなで物語を創り続ける 「なかはらミュージカル」

なかはらミュージカル（以下「なかミュー」という）は、2013（平成25）年2月16日、中原区制40周年記念事業として上演された「みんなで創る物語 なかはらミュージカル『水の郷のものがたり』」からずっと、みんなで物語を創り続け、公演を続けてきました。スタートからの6年間は中原区地域課題対応事業として中原市民館の全面協力の下でやってきましたが、2019（平成31）年3月公演からは、行政事業から卒業し、市民の手による自主事業として新たな一歩を踏み出しました。



▲第10回公演キャストの皆さん。応援よろしくお願いします！

地域の歴史文化をテーマにした オリジナル脚本と音楽

たとえば明治から大正に変わる時代、東京と横浜の中間にあたる御幸村（現在の幸区と中原区の各一部）で工場建設の話が持ち上がります。「工場建設、絶対反対！」「工場が建てば雇用が増える」「長男が農家、次男は工場、それ結構いいかもしれない」と、工業地帯に変化していく御幸村の様子を生バンド演奏に合わせて歌って踊って表現します。歌詞やセリフに時代の変化や地域の歩みが盛り込まれていて、演じる皆さんも、観賞する皆さんも、自然に地域への理解を深め、愛着がわいてくるようなミュージカル。同じテーマで2年ずつ上演していますが、同じテーマでも前年とは違う新しいお話になり、それに伴って音楽も新たに書き下ろされます。オリジナルの脚本に音楽、そしてバンド生演奏！なんと贅沢な舞台なのでしょう。



◀頼りになる指導部の皆さん

みんなにスポットが当たる素敵な場

なかミューでは、全員に一言以上のセリフがあります。前列に出て、スポットライトが当たる場面がどの出演者にもあるように構成されているので、普段は目立たないようにしている子ども、なかミューでは一生懸命やらないといけません。



▲熱のこもった練習風景

「一生懸命って楽しい！」と体感でき、いつもの自分と違う自分になれる、そんな場所でもあるとのこと。ある実行委員さんは、「すごくおとなしくて声を出せなかった子が、後半になってくると大きな声が出せるようになったり、小さな子どもでも長時間の練習ができるようになったり、子ども達の変化には毎回驚かされます」と話していました。また、中学生と社会人が大人キャスト同士として対等に話したり、教え合ったり、世代を超えた豊かな交流の場にもなっているようです。

10年続いたミュージカルをこれからも

この3月に10回目の記念公演を迎えるなかミュー。実行委員の皆さんは活動資金の確保にとっても苦労されているそうですが、ワークショップを開催して一般の方と一緒に小道具づくりをしたり、支援を得るために奔走したり、ミュージカルをつないでいくために工夫をこらしています。新型コロナウイルス感染拡大を受けて公演2週間前に涙をのんで中止した第8回公演『Voice』以降、一昨年の第9回公演は映像と合わせたファミリーライブを、昨年はワークショップを開催しました。今年は4年ぶりとなる本格公演です。皆さま、どうぞお楽しみに！！

第10回『なかはらミュージカル』

桃の里の物語 ～すみ子とカンナ～

2023(令和5)年3月11日(土曜日)
12日(日曜日)

中原市民館多目的ホール

奥平亨実行委員長から皆さんへ

「記念すべき第10回公演を2023年3月に開催します。4年ぶりの本公演は、中原区の木である桃と川崎大空襲をテーマにした『桃の里の物語～すみ子とカンナ～』を中原市民館で上演します。61名の市民キャストが皆さまのお越しをお待ちしております！」



公式ホームページ



フェイスブック



(PR) 動画公開中
YouTube

■なかはらミュージカル実行委員会

メールアドレス nakaharamusical2022@gmail.com